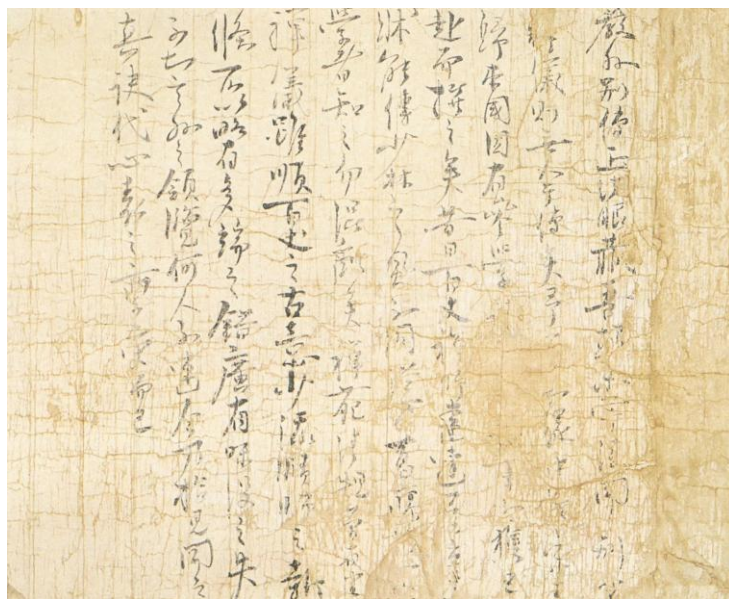




●重要文化財 「^{みょうぜんかいちよう}明全戒牒」 1巻
鎌倉時代 正治元年(1199)

道元最初の師^{みょうぜん}明全(1184~1225)が、東大寺戒壇院で具足戒(僧侶の証明)を伝授された際の証明書。明全は本書を携え道元らと入宋するが、宝慶元年(1225)に客死、道元帰国に際し遺骨とともに持ち帰られた。末尾には道元の自筆で明全の略伝が記されている。金銀で装飾された華麗な料紙が用いられており、戒牒の遺例としても貴重。



国宝「普勸坐禅儀撰述記」

●国宝 「^{ふかんだぜんぎせんじゆつぎ}普勸坐禅儀撰述記」 1幅
^{どうげん}道元筆
鎌倉時代 嘉禄3年(1227)

嘉禄3年(1227)に中国より帰国した28歳の道元は、坐禅普及のため、作法や意義を説いた『普勸坐禅儀』を著した。本書は道元自筆で撰述の動機を記したもので、日本において、未だ正しく伝えられた仏の教えを聞いたことがないとし、禅の教えを正しく伝えるため、これまで見聞した修行の秘訣を『普勸坐禅儀』に著したと記している。